

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和3年度
岩手県意見交換会(第3回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2022年3月16日

● 目次

1. 実践の場の概要
2. 実践の場の開催結果
 - (1) 座談会パートでの議論結果
 - (2) 参加者満足度・意見
3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ
4. 意見交換 1
 - (論点 1) 年間の取組内容・実践の場に対する良かった点・改善点
 - (論点 2) ノウハウ案のブラッシュアップ
5. 次年度の協議会・意見交換会について
6. 意見交換 2
 - (論点 3) よりインパクトある取組とするために工夫するポイント
 - (論点 4) 次年度テーマ

● 1. 実践の場の概要

これまでの意見交換会の内容を踏まえて、下記の内容で実践の場を開催しました。

開催日時	2022年2月8日（火）13:00～15:00	開催場所	釜石市民ホールTETTO ギャラリー オンライン開催（@Zoom）
タイトル	釜石の今と未来を考える 座談会		
企画目的	<ul style="list-style-type: none">・釜石をふるさとと感じてもらい、地域が活性化するための契機の創出・地域の今までの歩み、これからの発展について、地域の方から発信・地域の発展に寄与する「ふるさと」への関りについて、関係者でアイデアを出し合う		
実施内容	<p>13:00～ 開会挨拶・趣旨説明</p> <p>13:10～ 講演パート 「釜石市のパートナーシップによるまちづくり」について 「ふるさと」釜石の今と未来のありたい姿</p> <p>13:50～ 座談会パート 釜石の魅力アップに向けた意見交換 （ファシリテータ：早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 村田 信之 客員准教授）</p> <p>14:55～ 閉会挨拶（宝来館・岩崎様）</p>		
規模	【参加者】48名 （一般参加者6名、オンライン参加者23名、登壇者6名、副代表団体6名、復興庁・復興局7名）		

● 2. 実践の場の開催結果 当日の内容（第1部講演パート）

第1部の講演パートでは、釜石市のパートナーシップによるまちづくりと、地域の現状とありたい姿について、岩崎氏をはじめ釜石の皆様から関係人口に対しお話し頂きました。

「釜石市のパートナーシップによるまちづくりについて」

登壇者	講演内容
釜石市総務企画部総合政策課 オープンシティ推進室長 金野尚史	<ul style="list-style-type: none">釜石市オープンシティ戦略復興プロセスで得た最大の資産である「つながり」を生かしたまちづくり

「ふるさと」釜石の今と未来のありたい姿

(株) 青紀土木 代表取締役社長 青木健一	<ul style="list-style-type: none">地域の手で築く釜石の未来（被災からの歩みについて）子供たちが誇れる、明るい未来を築くまちづくり地域の中高生のキャリア教育の推進
(有) 宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎昭子	<ul style="list-style-type: none">自然豊かな地域の魅力地域の特色を生かしたこれから実行したい地域活性化の施策
(一社) 根浜MIND 監事 佐々木雄治	<ul style="list-style-type: none">ボートレスキュー活動と普及展開の取組学びの取り組み持続可能な地域づくり
(一社) 根浜MIND 監事 コーディネーター/実践型コンサルタント 細江絵梨	<ul style="list-style-type: none">防災学習を通じた国際協力・交流スマトラ沖地震と東日本大震災の教訓・復興ノウハウの交換両地域の高校生を交えた相互学習

● 2. 実践の場の開催結果 当日の内容（第2部座談会パート）

第2部の座談会パートでは、講演パートにて発表した釜石でのこれからの取組について、地域でご活躍される方々、地域を見守っている方々との意見交換を行いました。

発言者（敬称略）		発言内容	
ファシリテーター	早稲田大学 グローバルエデュケーションセンター 客員准教授 村田信之	<p>登壇者の4名の方々とオンライン参加の関係者による、地域の発展に寄与する「ふるさと」への関りについて意見交換</p> <p><主なご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域に関わる多くの関係者の期待や想いを紡いで結果に繋げていくプロセスと、それを関係者が共に理解するということが地域の復興・創生において重要。 • 「未来責任」という言葉が今後の地域活性化のカギとなる。地域内の活動人口が自分事として地域の未来について考えることが重要。 • 既存の地域の良さを、次の世代や地域外の関係者に伝えることで「ふるさと」と感じてもらうことが持続可能な地域の発展につながる。 • ラグビーのまちとしての側面をもつ釜石に存在する「品位」「規律」「情熱」「結束」「尊重」といった価値観が日常の中に見られ、こうした価値を子どもたちに伝える人材育成も重要 • また釜石市は自然環境が整っている背景から、持続可能な環境が整えながら都市部から人を呼び込む活動に繋げていく計画や、地域の農産物を活かした商品開発があるのではないかと。 	
座談会参加者	現地登壇者		(株) 青紀土木 代表取締役社長 青木健一
	(有) 宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎昭子		
	(一社) 根浜MIND 監事 佐々木雄治		
	(一社) 根浜MIND 監事 コーディネーター/実践型コンサルタント 細江絵梨		
	オンライン参加者		釜石野鳥の会 会長 白澤良一
岩手県立大学 総合政策学部 准教授 島田直明			
釜石シーウェーブスRFC ゼネラルマネージャー 桜庭吉彦			

● 2. 実践の場の開催結果 参加者アンケート

アンケートは8名の関係人口よりご回答がありました。関係人口の方に地域についての今後の展望を理解いただき、地域交流に最も興味・関心を持ったとの回答を得ました。

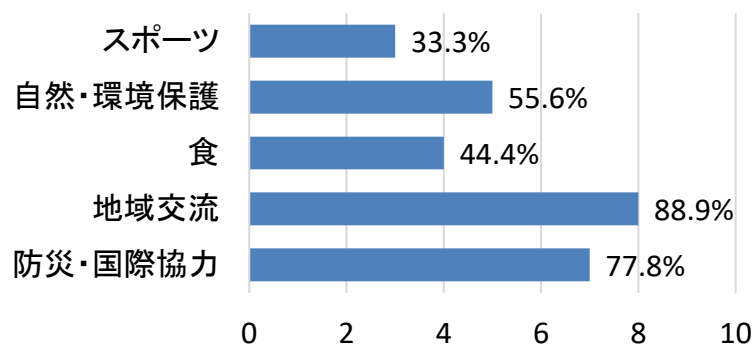
講演に対する ご感想

- ・ 実際に活動している方々から、現在の釜石の状況と、これからのことが聞けたこと
- ・ 色んなお話が聞けてとてもよかった。根浜のこれからの取り組みがよく理解できとても楽しみだと感じた。
- ・ 被災後におけるこれまでのまちづくり、ラグビーワールドカップ誘致までのプロセスを解説いただいた。加えて、釜石の地域特性を活かし次世代の子どもたちを意識されたこれからのまちづくりの展望をイメージすることができた。
- ・ 普段の女将さんや佐々木さんなど釜石の人との交流でも聞くことのできないような深い話を聞くことができた。
- ・ 座談会では、おかみの唐突なパスもあってか、形式張ってない現地の生の声、想いが聞けたのでよかった。
- ・ テーマにある未来についてイメージすることが出来た
- ・ 実際に復興に力を尽くしている方々の話であり、考えさせられる内容であった。
- ・ 釜石市の魅力についてまだまだ知らないことが多かったが、今回の座談会を経て釜石市がどういうところなのか理解できた。

興味・関心のあるテーマとその理由

興味・関心のある取り組みテーマ

(9名回答*・複数回答可)



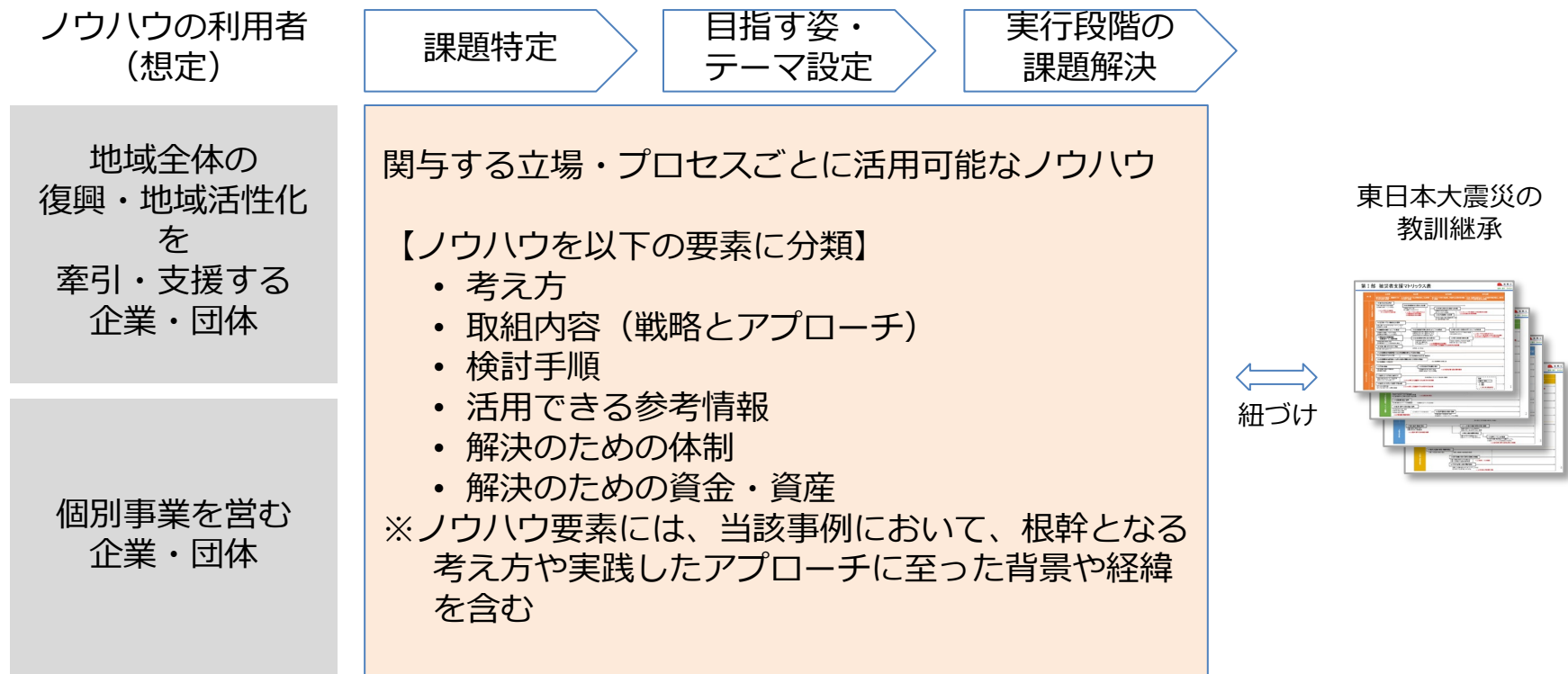
*副代表団体より1名回答

選択理由(括弧は選択テーマ)

- ・ **【全て】**全て釜石の強みだから
- ・ **【自然・環境保護、食、地域交流、防災・国際交流】**毎日、片岸公園で白鳥を観察していること、埼玉でゲンジボタルの生息環境の維持に関わったこと、NPOおはごきで水産物の加工に関わっていることなど
- ・ **【食、地域交流、防災・国際交流】**専門に関連
- ・ **【地域交流】**人と人とのつながりがベースになると感じたため。
- ・ **【地域交流、防災・国際交流】**映像化の活動として取り組んでいるため
- ・ **【地域交流、防災・国際交流】**今回の座談会で釜石市が今後発展に向けた資料をみて、やはり震災前より豊かにすることでリターン化を図るという計画に興味を持ったため。

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

本年度の取組では、地域全体の復興・地域活性化を牽引・支援する立場の企業・団体と個別事業を営む企業・団体とで活用可能なノウハウが抽出できると考えています。また、これらのノウハウは課題解決のプロセスにおける課題設定、目指す姿・取組テーマの設定、実行段階で発生する課題の解決に区分して整理でき、教訓継承のノウハウの詳細版として紐づけて整理できるものと考えています。



● (参考) 東日本大震災の教訓継承の概要

作成の趣旨

発災から10年が経過し、復興に係る様々な取組が行われる中で、教訓や知見が蓄積

来るべき大規模災害に備え、教訓・知見の関係機関等との共有、活用に期待

「教訓・ノウハウ集」の作成

(参考)「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針(平成31年3月閣議決定)

「減災」の考え方を含めた多様な教訓や震災の記憶を風化させることなく次の世代に伝えるとともに、効果的な復興の手法・取組や民間のノウハウ等を今後の防災・減災対策や復興に活用するため、「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」との連携、国及び地方公共団体等による震災・復興記録の収集・整理・保存等を通じて、復興手法を始めとして復興全般にわたる取組の集約・総括を進める。

特徴

- 東日本大震災からの復旧・復興に係る**官民の膨大な取組事例※**を収集・調査。
成功事例だけでなく**残された課題も記述**。
- 復旧・復興に係る研究者の**専門的知見も踏まえ、事例から教訓・ノウハウを抽出**。
- 地方公共団体の職員等の理解に資するよう、**簡潔かつ実践的に記述**。

※原子力災害に係る事例については、地震・津波災害と課題が共通するものを除き収集対象としていない。

※記載の時点は、令和2年度現在である。

構成

- **マトリックス表** : 「被災者支援」「住まいとまちの復興」「産業・生業の再生」「協働と継承」の4つの分野ごとに、課題の発生時期(応急、復旧、復興前期、復興後期)及び各課題の相関関係を表形式で整理。
- **本文** : 「課題」ごとに、東日本大震災からの復興における「状況」と「取組」、そこから導かれる「教訓・ノウハウ」を記述。
- **事例個票** : 本文に紹介された「取組」について個別・詳細に紹介。

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

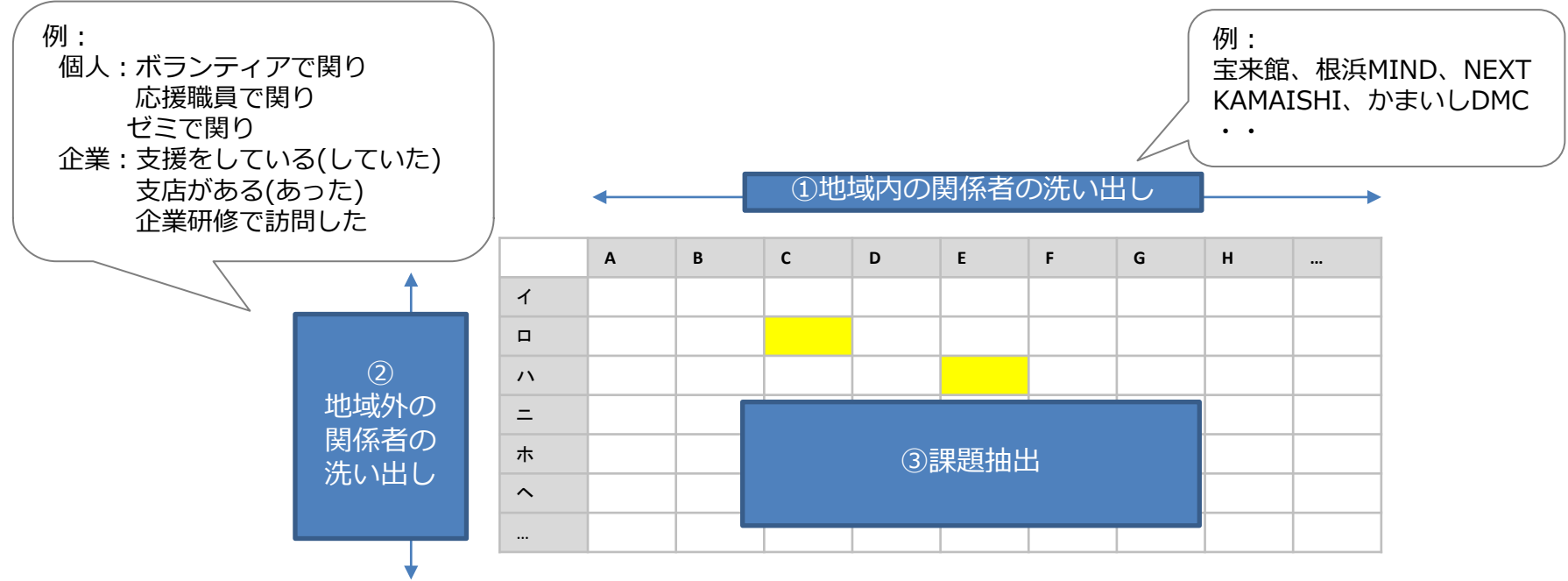
ノウハウ
の利用者
(想定)

地域全体の復興・地域活性化を
牽引・支援する企業・団体

個別事業を営む
企業・団体

分類	釜石市
取組内容（戦略とアプローチ）	<p>地域内の関係者、地域外の関係者の観点から網羅性を高め検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内の関係者を洗い出し、広く巻き込む 発案者・企画者のネットワークに加え、商工会や町内会の活用も有効 企画グループは、構想・アイデアの策定、構想・アイデアの精査、構想・アイデアの実行の観点で強みを持つメンバーで構成することが望ましい 企画グループは、実行スピードを高める観点から大人数になり過ぎないように留意（6名程度が望ましい） 課題は、地域内の関係者が地域外の関係者とのつながりの維持・拡大のために実施している中で発生している問題から、どのように達成していくかを明文化して抽出する

課題設定のアプローチの概念図



● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

ノウハウ
の利用者
(想定)

地域全体の復興・地域活性化を
牽引・支援する企業・団体

個別事業を営む
企業・団体

分類	釜石市
考え方	<p>既存の関係人口からの評価・印象を基に地域の特徴をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでに関係人口となり、複数回釜石を訪問している方がどこを気に入ってくれているのかを情報収集し、整理する • その結果と地域の状況（商品・サービスの提供状況、受け入れ環境など）とを比較し、ギャップがある部分に着目し、強化すべき取組・テーマを設定する
取組内容（戦略とアプローチ）	<p>ビジネスモデルの不足点に着目する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 関係人口にふるさとと感じてもらうために、必要な資源や業務、収入の流れ、コスト構造を整理し、不足している要素に対し、どのように構築・改善するかを計画に落とし込む • 特に協業先の検討にあたっては、協業先企業・団体の事業・取組を踏まえ、参画メリットを仮設定の上、丁寧にコミュニケーションし、交渉する

(参考) ビジネスモデルキャンバス

主な 協業先	主な業務	提供価値	顧客との 関係	顧客
	主な資源		チャンネル / 販路	
コスト構造			収入の流れ	

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

ノウハウ
の利用者
(想定)

地域全体の復興・地域活性化を
牽引・支援する企業・団体

個別事業を営む
企業・団体

分類	陸前高田市
取組内容（戦略とアプローチ）	<p>最終目標へ到達するためにスモールステップを積み重ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終目的達成までのロードマップを設定し、マイルストーンを明確にする マイルストーンごとに検証すべき要素、スピーディな実施方法、検証方法を検討し、実行する（スモールステップ） KGI、KPIを設定し、定量的に達成状況、改善すべき点を把握し、スモールステップごとにPDCAを回せるようにする
検討手順	<p>地域へのインパクトを勘案したテーマの優先度の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組みたいテーマを洗い出し、各テーマ間の前後関係を整理し、地域へのインパクトから取組テーマを絞る。 取組テーマの選定は、経済効果・効果の範囲（人数）・実現期間等、対内・対外的に状況に応じた地域へのインパクトの指標を設定し判断する

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

ノウハウ
の利用者
(想定)

地域全体の復興・地域活性化を
牽引・支援する企業・団体

個別事業を営む
企業・団体

分類	釜石市
取組内容（戦略とアプローチ）	<p>個別検討とその思い・行動をつなげる公開型イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿を軸に、地域外の関係者アイデアを持ち込み、具体的な取組に関して、地域内の関係者との個別検討を実施 ・ それぞれの検討内容を地域内外の関係者と共有し、更なるブラッシュアップ、効率向上のためのアイデア獲得の契機とするため、一堂に会するイベントを開催

分類	陸前高田市
取組内容（戦略とアプローチ）	<p>スモールステップを積み重ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者は短期でトライアル実施ができる範囲に限る（大企業や自治体は入れない） ・ スモールステップで巻き込む顧客は、ターゲットとしたい顧客層の代表的な属性を持つ人を数多く集める
解決のための体制	<p>目的志向での協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スモールステップの積み重ねの過程で多数の課題が発生するため、その解決を担える人材を地域内外から広く集める ・ 企画・運営に必要な人材は、副業・委託も織り交ぜて機動力を確保 ・ 専業での関与を前提にせず、特定の目的に沿う形で、副業人材を多方面から採用（ワイン、加工食品、地域コーディネーター等） ・ 関係者の関係者を芋づる式に巻き込み

● 4. 意見交換 1

本年度の取組を踏まえ、次年度以降へ活かすべき内容、地域内外への普及展開させるノウハウについて、ご意見を伺います。

論点 1	次年度に向け、年間の取組内容・実践の場に対する良かった点・改善点
論点 2	県内外の企業・団体が活用できるものとするためのノウハウ案のブラッシュアップ

● 4. 次年度の協議会・意見交換会について

次年度は、これまでに蓄積したノウハウを被災地内外に普及展開をさらに効果的に実現するため、課題設定や推進方法、発信方法などの観点で発展させた取組とする考えです。

次年度の事業概要（『令和4年度予算概算決定概要』（令和3年12月 復興庁）から引用）

■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて、優良事例の表彰やワークショップ等を通じて被災地内外に普及展開するとともに、移住促進や交流・関係人口の拡大、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携、専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

次年度の協議会の方向性

- ・ 「新しい東北」官民連携推進協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する
→普及展開を目指したインパクトある取組とするため、課題設定や推進方法、発信方法について議論し、工夫する

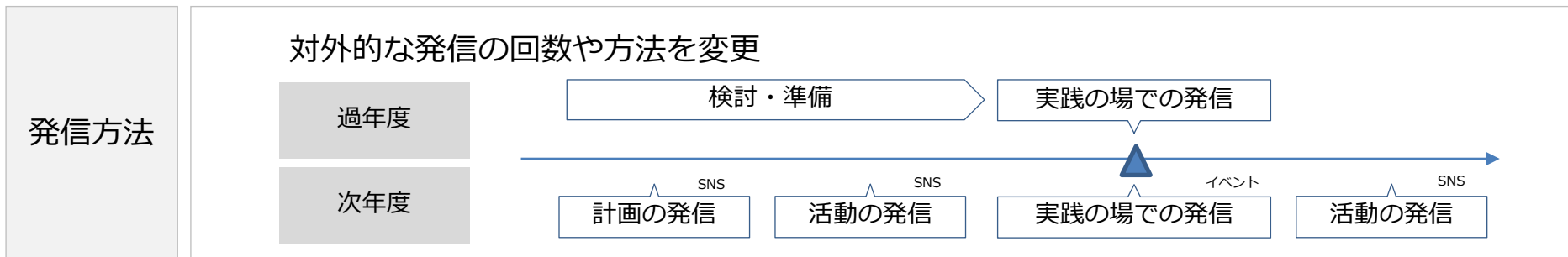
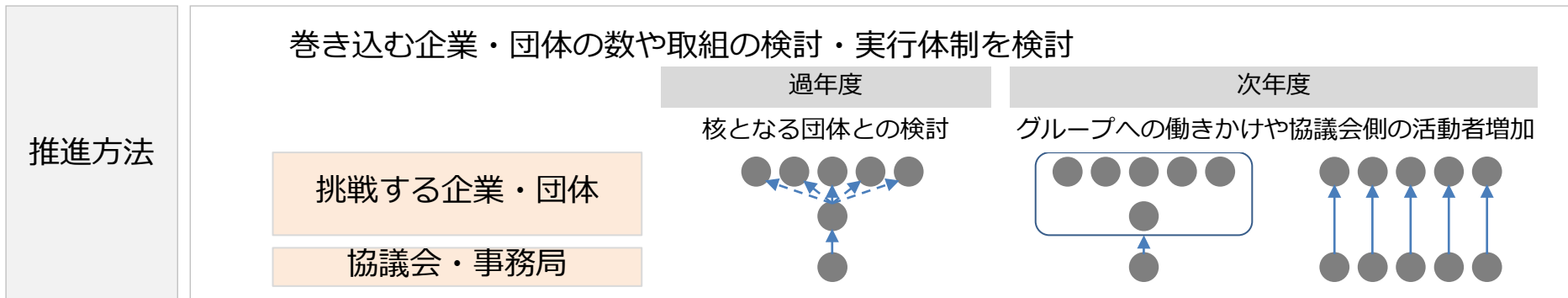
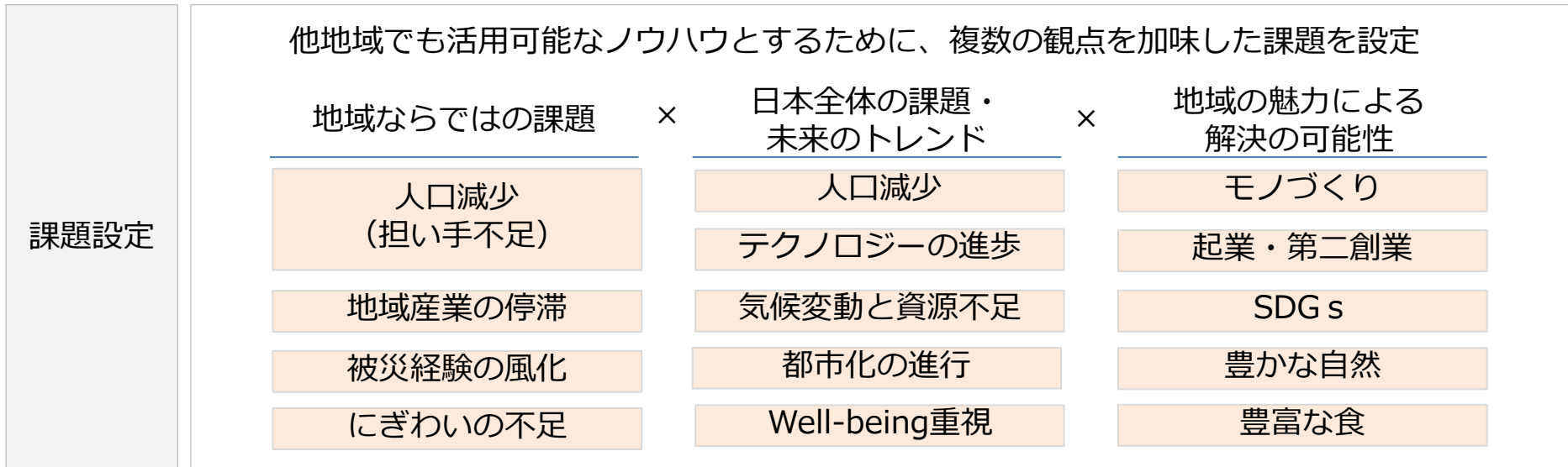
<議論・工夫のポイントイメージ>

課題設定： 地域ならではの課題 × 日本全体の課題・未来の課題 × 地域の魅力による解決の可能性で選定

推進方法： 核となる団体に加え、関連する企業・団体を大きく巻き込み推進

発信方法： 実践の場を軸にしつつ、検討プロセスを含めた発信による興味喚起

● 議論・工夫のポイントイメージ



● 5. 意見交換 2

次年度の意見交換会・実践の場を通じた取組の方向性検討にあたり、工夫すべきポイント、次年度の取組テーマについてご意見を伺います。

論点 3	よりインパクトある取組とするために工夫するポイント (課題設定、推進方法、発信方法などの観点とその内容のアイデア)
論点 4	次年度の取組テーマや対象とする地域

令和3年度 第0.5回資料（抜粋）

● 1. 今年度の協議会の方向性

復興庁関連事業と連動し、過年度からの事例の発掘・共有を継続実施しつつ、今年度は被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する方向性です。

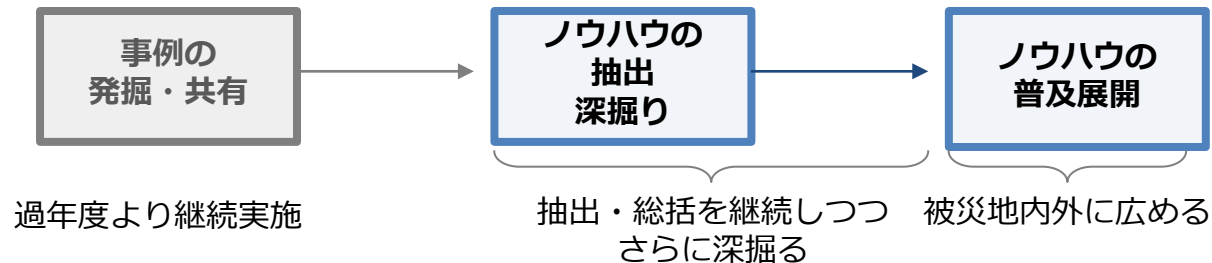
関連する復興庁の本年度事業概要（『令和3年度予算概算決定概要』（令和2年12月 復興庁）から引用）

■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて 優良事例の表彰やワークショップ等を通じて被災地内外に普及展開するとともに、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携や専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

本年度の協議会の方向性

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する
（今年度はノウハウの総括に取り組んだため、この内容をさらに深掘り、広く発信していきたい）



● 2. 意見交換会とは

協議会では地域課題の解決に向けた多様な主体による協議・協働のための意見交換会・実践の場を開催します。意見交換会では、活動状況の共有及び解決すべき地域課題の設定と解決に向け協議し、実践の場では、意見交換会の議論の中で挙げた、地域課題解決に向けた取組（解決策）を試行します。
 ※なお、本年度は実践の場において関連事業（復興・創生の星顕彰）の表彰式も一体的に実施します。



	△ 意見交換会の概要	△ 実践の場の概要
議題・内容	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の共有 解決すべき地域課題の特定と解決に向けた協議 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会の議論の中で挙げた、地域課題解決に向けた取組（解決策）の試行 関連事業の表彰式
開催時期 (目安)	第1回：8～9月 第2回：11～12月 第3回：1月～2月	12月～1月
時間	2時間	2時間～3時間程度 (関連事業の表彰式を除く)
場所	各県復興局の会議室	各県内の会場 (内容次第で規模等を勘案し選定)
出席者	副代表団体、オブザーバー、復興庁、 (必要に応じ) 課題に関連する企業・団体	副代表団体、オブザーバー、復興庁、 (必要に応じ) 課題に関連する企業・団体

● 3. 過年度までの振り返り

過年度までの意見交換会・実践の場を通じ、課題に対する解決策導出や情報発信の成果を創出。ただし、その後の実現や取組の継続には至っていなかったことから、本年度の意見交換会・実践の場では、復興・地域活性化に向けた実行・継続の仕組みを意識した議論・取組とすることを検討します。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
テーマ	関係人口の増加	関係人口増加から生まれる価値と、関わりを生むためのプロセス	三陸沿岸の地域経済の担い手支援	東日本大震災から10年目にあたって	年度ごとの成果
実践の場	ラグビーワールドカップ釜石開催PRイベントの開催 「岩手三陸地域における関係人口の増加に向けた調査」の実施	「関係人口×〇〇で考える三陸の未来」（宮古市） ブースセッションとパネルディスカッションによって、複数の切り口から、関係人口増加の価値や関わりを生む仕掛けづくりを紹介	「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします～」 （大船渡市） 企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダーに対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援するため、支援策の特徴や活用事例を紹介するセミナーと交流会	「いわて沿岸とつながる交流会 - これまでの10年を未来の力に -」 （陸前高田市） これまでの復興活動の思い出や、伝承していきたい大切な記憶・教訓を振り返り、共有し合い、また、教訓・つながりを活かして今後取組たいことや目指したいことのアイディアを共有	年度ごとに被災地の状況を踏まえた課題設定と解決に向けた議論・取組でアイデア導出・情報発信 課題 復興・地域活性化に向け創出したアイデアの実現や取組の継続のための仕組みづくり

● 4. 過年度までの検討経緯及び課題を踏まえた今年度のテーマ設定案

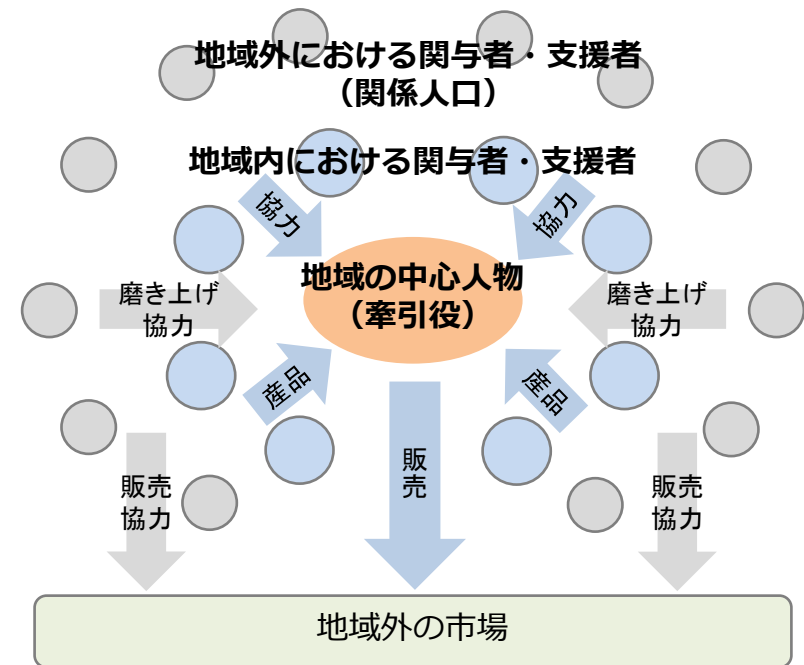
過年度までの震災伝承・関係人口の維持・拡大の取組において、活動の継続・効果の拡大に向けた課題把握はできていますが、抜本的解決に至っておりません。今年度は牽引役を軸に、関係人口を活用した商品・ビジネスの磨き上げ、販売を通じた解決を試行し、継続的な課題解決のモデル構築とノウハウ化に取り組むことをご提案します。

過年度意見交換会で議論された要素（抜粋）

震災伝承・風化防止	<ul style="list-style-type: none"> 震災から10年が経過し、伝え手の高齢化も進んでおり、若い世代の関与が必要 重いテーマだけに、きっかけは地域産品やお祭り、食などであってもよい
関係人口強化、つながりの維持	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度実践の場では、過去に岩手と関係のあった人が集まり、今後に向けた活動について議論 これまでの「3.11」(伝承重視)から一歩踏み込んで「3.12」(未来志向の活動)を始めようという意見
地域産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部の産業の活力が戻らない 震災や復興をきっかけにした新規事業や地域産業の活性化を図りたいが、首都圏や海外の市場にアクセスできない

現状における課題感や取組たいテーマは議論されたが、実現する取組には至らず

取組実現のイメージ



- 地域の中心人物を中心に、地域の産品を扱う事業者や地域内の協力者が協力体制を構築（地域内協力体制）
- 地域外の関与者（関係人口）は、地域外の目線で商品へのフィードバックを行い、磨き上げに協力。加えて所属する会社等を通じて商品の販売に協力（地域外協力体制）

● (参考) 牽引役のやること、協議会やその他関与者のやることイメージ

牽引役が関係人口を活用した地域産品の磨き上げと域外への拡販取組を企画・展開する中で、関与者を巻き込み、活動を拡大・継続させるためのアドバイス・場の提供について協議会より支援する想定です。

	牽引役	関与者（支援者）	協議会
枠組み作り	<ul style="list-style-type: none"> 自組織の活動の延長として、地域活性化に資する活動を実施し、次年度以降も継続 域内と域外を繋ぐ枠組みの組成・運営 	-	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な活動にするための枠組みづくり、そのための計画策定・実行に関して支援 副代表団体から各種支援に関する情報提供等、アドバイスを実施
関与者・協力者の巻き込み	<ul style="list-style-type: none"> 枠組みへの関与者の募集 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の周辺への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 域外の協力団体（首都圏企業、専門家等）の探索に関して、情報提供 協議会メルマガでの案内、協議会ポータルでの周知 副代表団体による専門家紹介
個別の活動	<p>当該枠組みの活動として、地域産品を域外市場に販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域産品を生産する事業者（域内）の募集 ▶ 域外への販路探索への協力者（域外）を募集 ▶ 地域産品へのフィードバックをする協力者（域外）を募集 	<p>【域内の関与者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域産品の生産、商品開発 プロモーションへの協力（リアルイベント支援、動画制作等） <p>【域外の関与者（関係人口）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 域外への販路探索（自身の所属先等を含む） 地域外の目線で商品へのフィードバック 自身の周辺への情報発信（SNS、口コミ含む） 	<p>実践の場を牽引役の当該活動の場として活用いただく</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域産品の販売マッチング（域外企業の招聘、地域商社機能活用等） ▶ テストマーケティングの実施（域外の方に商品を事前送付しオンラインフィードバックを行う等） ▶ 次年度に向けた活動計画の発表の場とする ▶ 実践の場にかかる費用（会場費、広報媒体、謝金、試作品費用等）は協議会負担が一部可能な部分有

● 5. 初回ご挨拶における各団体からのご意見

複数年度にわたるテーマ設定、県外（東京等）の参画、企業以外の牽引役の検討、牽引役の負担の考慮という意見をいただきました。

分類	意見（敬称略）
テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係人口というテーマは大きすぎると感じる。 2. 大きな（複数年度の）テーマとして関係人口の拡大・強化と設定し、何にフォーカスするかを単年度のサブテーマで設定する考え方もあるのではないかな。 3. 本事業の実行イメージについて、これまで取り組んでいる活動と重複するため、新たな要素が入ってくるような提案をしてほしい。例えば、販促の観点で首都圏の団体も参画する等の要素もあってよい。
実践の場（内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践の場にて、川徳百貨店（盛岡市）での物産展を開催するのはどうか。 2. 昨年度の「実践の場」では関係者が顔見知りだけであった。そのため、現フェーズにおいては、県外・海外との関わりが持てるようなネットワークが作れるというような要素が必要ではないか。
牽引役	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在はコロナの影響で、宿泊業等の地域産業が非常に厳しい状況であるため、牽引役を依頼するのは難しいのではないかな。そのため、例えば観光協会等の体力のある団体も候補として考えたい。 2. 牽引役に負担があるように見える。 3. 牽引役は個人というより組織として選定していくような考え方もあるのではないかな。また、年度の取組にはなるため、そこは前提としてお伝えし、途中で梯子を外すようなことにならないようコミュニケーションしていく必要がある。
進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本活動に関する費用面での補助はないのか。